

講義名	中小企業論			
担当教員	井上 芳郎			
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 2時限	授業形態	講義	
履修開始年次	1年生	単位数	2	備考

主題と概要

中小企業は、企業数で全体の99.7%、従業員数も全労働人口の約9%を占めている。日本経済において重要な存在です。この授業では、中小企業の定義や歴史、大企業と比較等の基礎知識、 や要請ある中小企業の姿、 中小企業の経営課題とその対応、 中小企業支援、 という4つの視点から中小企業について学んでいきます。積極的に事例を取り上げ、具体的な中小企業像をイメージできるように進めていきます。各回、講師からの一方的な講義だけではなく、受講生同士で死すカッションする時間を設け、知識にっ加えテーマに関する視点を広げ深める時間にしています。

到達目標

1. 中小企業とは何か、日本経済における中小企業の役割を理解し説明できる。
2. 多様な中小企業の姿を知り、具体的な事例を説明できる。
3. 中小企業の経営課題とその対応について向けての取り組みを理解し説明できる。
4. 自分なりの中小企業観を持っている。

提出課題

- ・毎回の授業に対して「今日の授業での学び」を提出してもらいます。
- ・中間の章レポートを課します。

上記ともに成績に反映します。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

- ・原則として、個別のフィードバックは行いません。ただし、授業の中で、みなさんの回答内容を紹介する場合があります。

評価の基準

各回提出する「今日の授業での学び」 / 50%

中間小レポート（事例研究） / 20%

期末定期試験 / 30%

*積極的に発言する等授業で貢献するものを加点します。

履修にあたっての注意・助言他

中小企業は日本経済の大宗といわれています。中小企業は現在および将来の日本経済を支える存在です。そのため、中小企業に関わる情報は、色々な媒体を通じて日々発信されています。そのような情報と授業で学んだことを結びつけることで、授業の内容をより多面的に理解してください。

教科書	.使用しない。			
プリント資料及び参考文献	毎回、パワーポイントの資料を提供し、それに基づき講義を行います。			

＜参考文献＞

- ①中小企業・ベンチャー企業論－グローバルと地域のはざまー 植田浩史他
- ②中小企業白書・小規模企業白書2020年版 上、中小企業庁編

授業計画

1. ガイダンスとイントロダクション（中小企業とは何か？なぜ中小企業論を学ぶのか？）
2. 中小企業に関する基礎知識（戦後中小企業の変遷、戦後中小企業政策の変遷と中小企業基本法）
3. 中小企業に関する基礎知識（大企業と中小企業、地域における中小企業）
4. モノづくり系中小企業（下請けシステムにおけるものづくり系企業における中小企業とその変化）
5. モノづくり系中小企業（地域経済の活用/他企業との多様な連携による新たな試み）
6. 商業系中小企業とまちづくり（地域社会における商業系中小企業の伝統的役割と現状、観光やインバウンド等新たなまちづくり）
7. 社会課題をビジネスで解決する中小企業（社会が成熟するに伴い多様化する社会課題をビジネスで解決することの重要性、企業事例研究）
8. 創業・起業（創業の現状、創業事例研究）
9. 創業・起業（フリーランスや複業など創業に係る新たな動き、創業支援）
10. ベンチャー企業（ベンチャー企業とは何か、中小企業とベンチャー企業の違い、ベンチャー企業支援）
11. 中小企業の経営課題とその対応（中小企業の取組方向に資する海外展開を含む販路開拓、生産性向上の試み）
12. 中小企業の経営課題とその対応（後継者問題の現状と課題、事業承継に向けた取り組みと第二創業）
13. 中小企業の経営者（様々な課題に直面しながらも前に進む中小企業の経営者とそのリーダーシップの事例研究）
14. 中小企業支援政策と支援現場の実践（中小企業を支える仕組みとしての国や自治体等の支援政策や中小企業金融）
15. まとめ（改めて「中小企業とは何か？」を振り返り、この講義で何を学んだか）を考える。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回配布するレジュメをしっかり読んで授業の予習・復習を行ってください。予習で「知っていることと知らないこと」と「理解できることと理解が難しいこと」を意識したうえで授業に臨んでください。授業を受けた後は、知識の整理を行い、自分の知識にまで高める努力をしてください。概ね、予習2時間と復習2時間を想定しています。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本授業は「商学部・経営学科・ビジネスリーダーコース」と関連が深い科目です。当該コースのディプロマ・ポリシーである、企業経営の仕組みや組織行動について、経営理論に基づき、自ら考え、理解できる2変りゆく経営環境の動きに強い関心を持ち、企業組織の中でリーダーシップをとって具体的な改善や解決の提案ができる、あるいは自らが事業を創出できる、この3つを目標にしています。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

レポートや課題に対しては、原則としてレスポンスを活用します。

実務経験の有無及び活用

大学卒業後は、製薬会社、機械工具製造業社で勤務する中で経営学に対する興味を持ち、いまから三十数年前に、経済産業大臣が認定する「中小企業診断士」という資格を取得しました。その後経営コンサルティング会社に転職し、主として中小企業の経営コンサルティング業務に従事しました。そのなかで、社会人大学院でも学びました。2002年に本学教員となりました。

備考